とびうめ

平成 26 年度
第2号
平成27年1月15日

発行所　福岡県知的障害者福祉協会　会長　木髙　徳典　春日市原町3-1-7　福岡県社会福祉協議会内　TEL (092) 584-3377

会長に聞く

福岡県知的障害者福祉協会
会　長　木髙　徳典

本会の今後の方向性についてインタビューしました

（情報広報委員会）

①　「福岡県の障害福祉について」

→福岡県は九州内においても協会加入数が随一でサービスの形態も多岐であることから、「充実できる要素」は備えています。県内４地区に分けていることで、地域の実情に合わせたきめ細かいサービスの提供が可能です。

②　「他団体との連携について」

→育成会や保護者会連合会、セルプセンターなど他団体も多く活動しています。立場の違いによる意見を主張するよりも、お互いを尊重することも大切です。「福祉」という大きな目的に向かい力を分散させず連携できればと思います。具体的には、各種イベント･研修会等の連携があります。

③　「社会福祉法人の在り方について」

→社会福祉法人の在り方については、地域において収入目的以外にどこまで地域貢献ができているか、「施設経営」色が強くなり、「福祉」色が薄らいできています。「そもそも社会福祉法人とは何か」を再度考える必要があります。在り方検討委員会から学ぶべき点も多く、税制優遇に見合った貢献を一法人だけではなく、全体として取り組む必要があります。

④　「福祉サービスにもっと力を入れたいところ、また充実させるべきところ」

→協会名を変更したいきさつにも関連しますが、「施設」のサービスだけではなく、地域・在宅の方へのサービスも重要になり、より「地域」を意識すべき時代となってきました。その意味でも「相談支援」の果たす役割は大きいと考えています。施設は地域資源として存在すべきだと思っています。障害者が「福岡県に住めば、何らかの形で協会と繋がり、支援を受けられる」という県になればと思います。

⑤　「現状の福祉サービスについての課題と問題提起」

→制度変更のスピードに利用者も、施設・職員もついていけていないと感じます。政治状況により左右され当事者主体になっていない現状は改善されるべきで、現場の課題、利用者の現状を吸い上げ、制度が変わっていく形が望ましいと思います。また制度が成立するまでのいきさつもしっかり理解しておく必要があります。

⑥　「福祉の現場で働く職員に対しての思い」

→施設・事業所の福祉サービスの良し悪しは、現場職員の「質」にかかっています。支援員の現場実践により物事は改善されていくことを理解し、自信と誇りを持ってほしいと思います。協会では支援スタッフ部会を中心にサポート体制を整えていきたいと考えています。また、自分の働く施設・事業所について理念・方針・強み等を「PR」･「外に発信」が出来るかどうかあらためて振り返ってほしいと思います。自施設・事業所の強みを知り、そこへ向かうことが理念達成に繋がると思います。対外的に PR すれば自ずと責任が生まれ、それがサービスの質の向上につながります。離職者が多い現状については様々な要因があると思います。「権利と責任」を理解できていない人も増えたと思いますが、職環境については、今までがそうしたから「こうでないといけない」という枠組みが出来てしまうと、新しい取り組みや支援の幅も狭まります。自由な発想で働けるよう職員が精神的に余裕を持てる環境づくりも大切と感じています。

目　次

◆会長に聞く……1
◆福岡県知的障害者福祉協会　役員・各部会・委員会委員名簿……2
各部会・委員会活動について
◆各部会・委員会活動について……3
◆第44回ソフトボール大会……4
第１回　ティーボール大会
◆第１回　グラウンドゴルフ大会……5
第20回　ソフトバレーボール大会
◆ディスコパーティー2014……6
第34回　ときめきスポーツ大会
◆平成26年度　第1回施設長研修会……7
平成26年度　職員研修会
平成26年度　第２回施設長研修会
◆第40回　九州地区地域生活者交流会福岡大会……8
◆平成26年度　児童発達支援部会研修会（福岡大会）……9
◆第32回　九州地区知的障害者施設親善球技大会……10
26年度福岡県知的障害者施設保護者会連合会第１回研修会　共催
◆九州地区知的障害関係施設職員研修大会　宮崎大会……11
九州地区障害者支援施設部会研修会　沖縄大会
第54回九州地区知的障害関係施設長研究大会　長崎大会
◆特集　食品表示制度について……12
◆新加盟施設紹介……13～14

福岡県知的障害者福祉協会　役員・各部会・委員会委員名簿

	部会・委員会名	施設名	氏名	備考
	会長	月の輪学園	木髙　徳典	北九州
	副会長	光の子学園	竹藤　望	北九州　児童発達支援部会
	〃	おおほり苑	岩見　景子	福岡　日中活動支援部会
	〃	笠置寮	渕上　忠彦	筑豊
	〃	赤坂園	田島　茂敬	筑後
	理事	小池学園	岩井眞紀子	北九州
	〃	志摩学園	末原　浩之	福岡
	〃	みろく園	芦馬　謙二	障害者支援施設部会
	〃	あきさと園	木戸　靖二	生産活動・就労支援部会
	〃	第一野の花学園	榎田　勝文	地域支援部会
	〃	昭和学園	福田　敬介	相談支援部会
	〃	ほっとスペースあさくら	石井　邦佳	支援スタッフ部会
	監事	早良厚生園	枡田　充生	
	〃	城山学園	仁田原　剛	
1	地区活性化部会	小池学園	岩井眞紀子	北九州地区
		ワークセンター栃	尾家　光将	北九州地区
		志摩学園	末原　浩之	福岡地区
		わたつみの里	田中　英之	福岡地区
		赤坂園	田島　茂敬	筑後地区
		城山学園	仁田原　剛	筑後地区
		笠置寮	渕上　忠彦	筑豊地区
		瑞穂学園	石田八重子	筑豊地区
2	児童発達支援部会・委員会	光の子学園	◎竹藤　望	北九州地区
		小池学園	○岩井眞紀子	北九州地区
		若久緑園	中山　雄二	福岡地区
		りんどう学園	北野真由美	筑後地区
		JOYひこばえ	力丸　敏光	福岡地区
3	障害者支援施設部会・委員会	みろく園	◎芦馬　謙二	筑豊地区
		赤坂園	○田島　茂敬	筑後地区
		鷹取学園	野村　祐治	筑豊地区
		板屋学園	椎葉　亮	福岡地区
		蓮の実園	石井　龍一	筑後地区
		周防学園	鈴木　丈二	北九州地区
4	日中活動支援部会・委員会	おおほり苑	◎岩見　景子	福岡地区
		早良厚生園	○枡田　充生	福岡地区
		葦の家	小関　正利	福岡地区
		さくら学園	稲富　祥泰	筑豊地区
		四方の里	熊谷　徹哉	北九州地区
		荒木学園	藤木　進和	筑後地区
5	生産活動・就労支援部会・委員会	あきさと園	◎木戸　靖二	筑豊地区
		出会いの場ポレポレ	北岡さとみ	筑後地区
		ジョブサポートみろく	葛原　高	筑豊地区
		白糸農園	藤田　勝利	福岡地区
		ワークセンター栃	尾家　光将	北九州地区
6	地域支援部会・委員会	第一野の花学園	◎榎田　勝文	福岡地区
		玄海学園	○中原　和人	福岡地区
		鞍手ゆたかの里	戸次　義浩	筑豊地区
		ひよりの丘	丸木　保和	北九州地区
		サングリーン	川崎　和子	筑後地区
7	相談支援部会・委員会	昭和学園	◎福田　敬介	福岡地区
		障害者就業・生活支援センターちくぜん	○宮地　博司	福岡地区
		相談支援事業所たいよう	城戸美由紀	筑後地区
		障害者相談支援センターたいよう	石本　糸江	筑豊地区
8	支援スタッフ部会・委員会	ほっとスペースあさくら	◎石井　邦佳	福岡地区
		みどりの園	○奥田　泰大	筑後地区
		相談支援センターココスネットワーク	○伊藤　研二	筑豊地区
		志摩学園	増山久美子	福岡地区
		月の輪学園成人部	黒江　新吾	北九州地区
		城山学園	井手　正博	筑後地区
		ガーデンハウス恵光	植田　真規	北九州地区
		みろく園	西田　悠未	筑豊地区
9	企画部会・研修委員会	わたつみの里	◎田中　英之	地区活性化部会
		引野ひまわり学園	酒井　一栄	児童発達支援部会
		福岡市立ふよう学園	安元　照貴	日中活動支援部会
		周防学園	鈴木　丈二	障害者支援施設部会
		出会いの場ポレポレ	北岡さとみ	生産活動・就労支援部会
		第二野の花学園	堤　正直	地域支援部会
		木の香園相談支援センター	須崎　未来	相談支援部会
		蓮の実団地	村上　愛	支援スタッフ部会
10	企画部会情報・広報委員会	あきさと園	◎木戸　靖二	筑豊地区
		第二北野学園	橋本　昭典	筑後地区
		ソーシャルサポートTsukinowak	松浪　雅文	北九州地区
		なのみ工芸	三苫　卓巳	福岡地区
		志摩学園	増山久美子	福岡地区

◎ 部会長・委員長
○ 副部会長・副委員長

各部会・委員会活動について

地区活性化部会

部会長　渕上　忠彦

今期も引き続き、副会長をさせて頂くこととなり、地区活性化部会を担当致します。

現在、福岡県知的障害者福祉協会の各地区の会員数が、福岡地区65施設、北九州地区56施設、筑後地区51施設、筑豊地区55施設あり、平成22年度より始まった、この地区活性化部会も4年が経ち、いろいろな輪が広がっていっております。各地区からの小さな疑問、諸問題等があれば提示していただき、会長を中心とした本会役員一丸となって、細やかな情報を収集し、分析を行い、その結果を皆さんにお伝えする事ができればと考えております。今後もそれぞれの地域性を考慮しながら、更なる地域の連携の強化を図り、情報の提供、協会の活動内容等を皆様に発信していきたいと思います。今後とも会員施設の方々が笑顔で挨拶し合える関係が出来るよう活動してまいりますので、ご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

児童発達支援部会

部会長　竹藤　望

今年度は、九州地区知的障害者福祉協会児童発達支援部会研修会が8月末に福岡市で開催されました。本会児童発達支援部会の上半期の活動は、同研修会の準備及び開催を行いました。今年度より、同研修会の分科会を「入所支援」「通所支援」「放課後等デイサービス事業」に再編しました。福岡県の担当ということで、部会を超えてたくさんの方々にご協力をいただきましてありがとうございました。来年度の九州地区児童発達支援部会研修会は、日本知的障害者福祉協会全国児童発達支援施設運営協議会をかねて10月に鹿児島で行われます。今年度同様、たくさんの参加をお願いします。

日本知的障害者福祉協会児童発達支援部会では、今年度で食事提供体制加算の経過措置が終わることから、経過措置の廃止についての再考、また、今まで一度も見直されていない職員配置基準についての2点に絞って要望を厚生労働省に提出しています。こどもを取り巻く一般施策が変わっている中で、障害のあるこどもの施策だけが、自立支援法施行時のように取り残されることのないように意見を集約し要望していきたいと思っています。児童発達支援部会は小さな集まりで、ともすれば忘れ去られてしまいがちです。特に地方の市町村の現状についてはなかなか中央に届いていないのが現状です。そこで、下半期は、部会委員の方のみならず皆さんがたの意見の集約を行っていきたいと思っています。何も発信しないことは現状を容認していることと同じです。九州から地方の意見を発信していきたいと思っています。児童発達支援部会に対するご意見・ご要望等ありましたら、事務局までメールをいただければ幸いです。

また、24年の児童福祉法の改正後、こどもの支援のあり方についてまだ混沌としていることもあり、厚生労働省では今、「障害児通所支援のガイドライン」策定が模索されています。福祉協会が永年培ってきた経験と英知を生かせればと願っております。

日中活動支援部会

部会長　岩見　景子

日中支援全国職員研修会が11月27日、28日石川県で開催されました。「つなぐ、一人ひとりの想いをつなぐ」を大会テーマに全国から420名の関係者が集まり、熱い議論が交わされました。1日目は「佛子園」雄谷理事長の「福祉で描くコミュニティ・デザイン」をテーマにシェア金沢の実践について講演いただきました。後半は田口部会長・森下副部会長と雄谷理事長の3人で「共生社会を創り出すために」のテーマで鼎談がありました。2日目は①日中支援の現状と課題②暮らし、働きへの支援③本人の意思に沿う支援④柔軟かつ機動的な支援活動とは⑤権利擁護への取り組みの5分科会に分かれて全国各地から実践発表があり意見交換しながらそれぞれの課題について活発な意見交換をすることができました。来年は、2月4、5日佐賀県で九州地区日中支援研修会が開催されます。意思決定支援や高齢化・重度化問題、働く等について有意義な意見交換ができればと思います。

障害者支援施設部会

部会長　芦馬　謙二

支援施設部会活動について今年度の委員は福岡県支援施設部会代表2名と県内4地区よりそれぞれ1名、委員として参加をいただき計6名での部会活動を行っています。年間を通じて3回～4回の協議を行い全国・九州地区の部会活動に対して意見を上げ、中央情勢もいち早く報告出来るよう心がけています。部会では1年を通じ課題を設け協議を行い今年度は「虐待防止」について協議を重ね、各施設での取り組み状況や実際に実施された研修内容や職員による自己チェック表等を会議にて確認しました。これらの協議内容は当協会の研修委員会を通じて実際の福岡県で開催される各種職員研修会に繁栄される事と致しています。その他、県内で先駆的な取り組みを行っている事業所の見学も行っており今後も会員の皆様に一つでも多くの情報がお伝えられる様、努めてまいりたいと思います。部会に対して意見等が有りましたらお申し出ください。

生産活動・就労支援部会

部会長　木戸　靖二

生産活動・就労支援部会は、8月に第1回部会委員会を行いました。優先調達法、三越で行う福岡県「まごころ製品」大規模販売会、官公需向け地域商談会、九州地区各県部会長との県内施設見学等について、協議致しました。活動としては、各施策の情報収集、各事業及び事業所の現状と課題等の情報収集、優先調達推進法施行後の現状とこれからについて、協議・検討を行います。9月には、県内で行われた九州地区生産活動・就労支援部会の各県部会長・副部会長の方々と合同で行った県内の先進的・優秀な取組を行っている施設見学。その後、九州地区の部会会議にも参加いたしました。研修については、10月6日～8日に第3回全国生産活動・就労支援部会職員研修会（東京都）が行われました。また、11月26日～27日の九州地区知的障害関係施設長研究大会（長崎）での分科会では、事例発表等の後にグループ討議が行われました。

九州地区施設長会、全国生産活動・就労支援部会職員研修会、どちらの大会も多数参加いただき、就労支援の先駆的な取り組み等を知る有意義な大会となりました。また、9月の九州地区各県部会長との合同施設見学会、九州地区部会会議に参加させて頂いたことは、県部会委員の皆さんにとって、有意義なものとなりました。今後も、部会の活性化に向け部会活動を行っていきます。

地域支援部会

部会長　榎田　勝文

障害者総合支援法が施行され、地域社会における共生の実現に向け新たな障害保健福祉政策を講ずるための関係法律の整備が進められています。

その中で、地域生活移行するための重点的な支援の必要性、共同生活介護と共同生活援助の一元化など基本的人権を享有する個人としての尊厳が問われています。

今年度から地域支援部会では2ヶ月に一度、委員の地区を会場に、九州地区地域支援部会の最上会長を囲んで今後の地域支援の方向性や勉強会を実施しています。

また、その情報を部会委員と共有して各地区に情報発信していきたい！という熱い思いで、第54回九州地区知的障害関係施設長会では『地域支援への検証と課題』をテーマに、九州地区でのグループホームの現状と課題、福岡県での地域における現状をパネルディスカッション討論の結果、グループホーム一元化、サテライト型、加算や社会資源など具体的な方向性が打ち出されました。

これからも、地域社会における共生を実現し、かつ社会的障壁を除去できるよう地域支援部会として先駆的な勉強会をなお一層進めていきたいと思います。

相談支援部会

部会長　福田　敬介

相談支援部会・委員会は今年度より新たな委員編成を行いスタートしています。今年度は福岡県支援事業受託支援連絡協議会（福岡県障害児等療育支援事業受託施設による協議会）との協力、連携を図り研修会の開催にあたりスタッフ間の交流及び情報交換等を行っています。

さて、計画相談支援については次年度からの国の指針が各県、市区町村に、そして我々事業者に示される時であり更なる展開に備えておく必要があります。すでに計画相談支援そのものは各地域で具体的に推し進められている訳でありますが、これから更に慌ただしさを増すのは必至です。

私たちは質の高い支援を求め実践しなければなりませんが、本来この業務は誰でもができるものではありません。これまで障害福祉に尽力し貢献してきた施設・事業所こそ取り組まねばならない業務ではないかと考えます。本協会相談支援部会・委員会は今後も各種関係機関、団体等と更なる協力、連携を図り微力ながら福岡県の障害児・者の相談支援の質的な向上の一翼を担えればと思っています。

支援スタッフ部会

部会長　石井　邦佳

支援スタッフ部会は4地区各2名の代表者選出により、8名で部会・委員会活動を行っています。

活動としましては、協会の年間行事である球技大会やディスコパーティーなど利用者参加のイベントや研修会等の企画・運営に携わらせていただいています。今年度より九州地区親善球技大会がティーボール、グラウンドゴルフの2つの新種目に変更され、5年ぶりに再開されました。それに伴い、県内の球技大会に於きましてもこれまでのソフトボール大会、ソフトバレーボール大会に加え4種目の球技大会を開催したところです。近年の重度化・高齢化の課題を鑑み、各施設でも比較的取り組みやすい競技としてこの2種目での親善球技大会となりました。大会前日の交流会・開会式でも再開を喜ばれるたくさんの笑顔が溢れており、今後も末永く継続していける大会となるよう進めて参りたいと思います。

また、今年度は九州地区地域生活者交流会の実行委員として関わらせて頂きました。利用者支援に一番身近な存在として、日々支援している中での課題や悩み等を整理し、必要な研修やイベントを企画するなど今後も積極的に部会活動を行っていきたいと思います。活動へのご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。

第44回ソフトボール大会

平成26年5月14日（水）雁ノ巣レクリエーションセンターで、第44回ソフトボール大会が開催されました。当日は天候が悪く雨が降ったり止んだりしていましたが、選手の皆さんは悪天候にもかかわらず、日頃の練習の成果を十分に発揮され、各パートでは白熱した試合が行われていました。選手の熱意が通じたのか、各パート決勝まで行う事が出来、その後激しく雨が降り出しました。そのような状況ではありましたが、選手の皆さんは、怪我なく無事に大会を終える事が出来ました。参加施設より御協力いただきました実行委員、審判の皆様をはじめ、関係者の方々の御協力有難うございました。

第44回（平成26年度）ソフトボール大会　結果一覧

順位	Aパート（6）	Bパート（6）	Cパート（6）	Dパート（7）
1位	第二・第三白梅学園	桂木とくのみ園	さくら学園	月の輪学園
2位	健康荘	第二田川学園	なのみ工芸	ほっとスペースあさくら
3位	若久緑園	清浄学園	田主丸一麦寮	苅田学園
4位	第一野の花学園	第二北野学園	みろく園	ひびき学園
—	周防学園	若宮園	さいがわ学園	あきさと園
—	こすもす園・京都	天心園	城島ワークセンター	北野学園
—				母原

第1回　ティーボール大会

平成26年5月14日（水）雁ノ巣レクリエーションセンターで、第1回ティーボール大会が開催されました。球技大会参加者の重度高齢化を考慮し開催された種目であり、今大会は3施設3チームの出場となりました。どのチームも公式戦は初めての経験ということでしたが、参加施設職員の方々の協力もあり順調に試合は進み、総当たり戦での白熱した試合となりました。競技はティーの上にのせたボールを打ち、イニング毎に13人全員が必ず打席に立てるというルールで、他競技への参加が難しい方も楽しんで参加できる種目となったようでした。上位2チームは九州地区親善球技大会に出場できることもあり、第2回大会は出場チームがさらに増えるのではないかと期待しています。

第1回（平成26年度）ティーボール大会　結果一覧

順位	施設名
1位	若久緑園
2位	第二赤坂園
3位	なのみ工芸

第1回　グラウンドゴルフ大会

平成26年5月29日（木）筑後川リバーサイドパークで第1回グラウンドゴルフ大会が開催されました。この大会は、利用者さんの高齢化・重度化を受けて新設された大会で、1コース8ホールを2ラウンド、各4名がプレーし、その合計打数で順位を競います。初めての開催にも関わらず、17施設の方々に参加頂きました。30℃を超える真夏日の中、また練習期間が短かったとの意見もありましたが競技が開始されると、50mもの距離を2打でホールインされる方もあり、持てる力を存分に発揮されていました。チーム内での好プレーには歓声をあげ、時には励まし合う姿がとても印象的でした。気になる結果は、笠置寮がワンツーフィニッシュという快挙を達成されました。今後、中心的な競技の一つとして浸透出来る様、皆さんとともに築き上げていきたいと思います。

第1回（平成26年度）グラウンドゴルフ大会　結果一覧

順位	施設名
1位	笠置寮A
2位	笠置寮B
3位	健康荘
4位	北野学園
5位	清浄学園
6位	翔朋学園1
7位	第2さくら学園
8位	第二赤坂園
9位	あきさと園B
10位	あきさと園A
11位	ほっとスペースあさくらA
12位	蓮の実園
13位	ほっとスペースあさくらB
14位	ひびき学園
15位	翔朋学園2
16位	さくら学園
17位	赤坂園

第20回　ソフトバレーボール大会

平成26年6月19日（木）第20回ソフトバレーボール大会が、かすやドームで開催されました。18施設が2パートに分かれ、リンクリーグ方式の予選リーグを経て、決勝トーナメント及び順位決定戦トーナメントにて激戦を繰り広げられました。

予選リーグの第1試合目は、選手の皆さん緊張されていたのか、静かな試合運びとなっていましたが、試合を重ねるたびに固さも取れ、選手間で声を掛け合ったり、最後には応援に来られていた方々とも一緒になり、一体感がうまれた大会であったように感じました。

また、今大会は接戦が多くフルセットまでいく試合もあり、手に汗握る試合にドキドキとワクワクを感じさせられました。

来年の大会に向けて練習に励まれ、皆様の活気あるプレーを期待いたします。

第20回　ソフトバレーボール大会　結果一覧

順位	Aパート（9）	Bパート（9）
1位	第三白梅学園	こすもす園・京都
2位	桂木とくのみ園	周防学園
3位	健康荘	第二北野学園
4位	蓮の実団地	若久緑園
5位	あすなろ学園	天心園
6位	さくら学園	母原
7位	月の輪学園	なのみ工芸
8位	清浄学園	若宮園
9位	苅田学園	みろく園

ディスコパーティー 2014

平成26年10月28日（火）北九州の「リーガロイヤルホテル小倉」で、35施設　652名の参加を得て、ディスコパーティー2014が開催されました。

今年は、参加賞に毎年恒例の発光ブレスレットの他に仮装グッズを全員にプレゼントし、会場全体がハロウインのような賑やかな雰囲気のなかスタートしました。

毎回、快く引き受けて下さる「モリガズBAND」さんの楽しいトークや生演奏に、参加者もリズミカルに動き出し、大盛り上がりのディスコパーティーとなりました。

途中、立食でのおいしい料理や飲み物に舌鼓しながらの休憩では、抽選会も行われ、大きな歓声が上がりました。

また、色々な施設から参加された皆さんと一緒に、歌ったり、踊ったり、お話したりと満面の笑みの中、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

第 34 回　ときめきスポーツ大会

9月13日（土）、久留米市の久留米総合スポーツセンターで、第34回ときめきスポーツ大会が開催されました。大会は90団体、2139名が参加し、陸上競技、卓球、ボウリング、フライングディスクなど各種目において多くの声援を背に、日頃の練習の成果を発揮すべく全力で競技に挑みました。競技後は互いの健闘をたたえ合う姿も見られました。今大会の成績上位者は福岡県代表として、来年和歌山県で開催される第15回全国障害者スポーツ大会に出場します。

平成 26 年度　第 1 回施設長研修会

平成 26 年 5 月 22 日（木）ホテルセントラーザ博多で、福岡県福祉労働部　障害者福祉課　参事補佐　中川　慶一氏を迎え、講義『行政説明』と題し、第 1 回施設長研修会を開催いたしました。89 名の参加のもと行政説明では、①本年度より改正された生活介護事業における医師配置の取り扱いについて②平成 26 年 4 月に消費税率が 5 %から 8 %に引き上げられることに伴う報酬本体の改定について③障害者福祉施設に対する緊急実地指導の実施状況、そして改善指導状況と着眼点について④在宅重症心身障害児者に対する医療的ケア体制整備について⑤軽度・中等度難聴児補聴器購入費助成事業について⑥障害者施設でつくられる「まごころ製品」について、県や市町村等での積極的な購入を進めるとともに、大規模販売会や商談会の開催などにより、県民の認知度向上や施設の売り上げ拡大を図る平成 26 年度事業について丁寧に講義して頂きました。

各施設とも指定基準の改正とともに自施設のコンプライアンスを見直す有意義な研修会となりました。

平成 26 年度　職員研修会

平成 26 年 10 月 31 日（金）九州ビルで平成 26 年度職員研修会を開催いたしました。74 名の参加があり、講義Ⅰでは「障害者虐待について考える」をテーマに西南学院大学　人間科学部　野口幸弘教授を講師にお招きし、虐待防止法設立の制度的背景や、実際の虐待事例からみた施設側の課題、虐待を防止するための必要な支援体制づくりまで深く掘り下げた講義内容となりました。午後からの講義Ⅱでは「職員のメンタルヘルスについて」をテーマにイシバシタモツコーチング事務所　代表　石橋全氏を講師に招き、ストレスコントロールの基礎、コミュニケーションの基本について講義がありました。グループワークでは無意識な思い込みを自覚することでストレスをコントロールする力をアップさせることを実践を通して学ぶことができ、大変有意義な研修会となりました。

平成 26 年度　第 2 回施設長研修会

平成 26 年 11 月 21 日（金）九州ビル 9 階大ホールで、小川社会保険労務士事務所、社会保険労務士小川美也子氏を迎え、講義Ⅰ「福祉施設の人材確保・育成について」講義Ⅱ「福祉施設の労務管理と職員のメンタルヘルスについて」と題し、第 2 回施設長研修会を開催いたしました。

人材確保と育成については、求人と定着率、賃金の考え方、労働環境と就業規則の重要性、労働時間の問題、職員区分の重要性等について実例を挙げながら丁寧に講義して頂きました。

労務管理と職員のメンタルヘルスについては、労務管理における人事制度と人件費の課題や、労働契約と使用者側の安全管理義務、精神障害等に係る労災認定の話からメンタルヘルス対策、休職制度と就業規則にいま何が求められているのか、分かり易く講義をして頂き、今、就業規則に求められていることとして、職員区分、休職制度、服務規律、制裁事項などを明確にすることの重要性が分かりました。

今回は、各施設とも就業規則の再確認の思いを強くした有意義な研修会となりました。

第 40 回　九州地区地域生活者交流会福岡大会

平成 26 年 7 月 12 日（土）～ 13 日（日）の 2 日間ホテルニューオータニ博多で、第 40 回九州地区地域生活者交流会福岡大会が開催されました。九州・沖縄各地より 785 名の方達が参加されました。今大会は、近年行われてきた分科会方式ではなく、全体会として福岡県警本部生活安全総務課　地域安全対策係の方と福岡県総務部　防災危機管理局　消防防災指導課の方に講演をしていただきました。県警本部の方には、自転車における交通マナー講習や、ニセ電話詐欺等についての防犯講座をクイズや寸劇を取り入れて、解りやすく教えていただきました。県の方には、地震や水害などの被害画像を見ながら、災害の怖さ、日頃からの災害対策の大切さを学びました。二つの講演とも、地域社会で生活するうえでとても重要になるお話をしていただきました。また、オープニングアトラクションとして、JOY 倶楽部の方々に生演奏をしていただきました。会場の皆さんも、曲が進むにつれ緊張もほぐれ、笑顔で手拍子や立ち上がって踊る姿も見られ、会場が一体となっていました。

交流会では参加者の皆さんが名刺交換をしたり、お酒を酌み交わしたりと交流を深めている姿がたくさん見られました。また、アトラクションとして豪華景品が当たる○ × クイズを行い、会場全体が大盛り上がりの交流会となり無事終了いたしました。

利用者の感想

僕は 7 月 12 日福岡県福岡市のホテルニューオータニ博多にて、九州地区地域生活者交流会に参加しました。最初は JOY 倶楽部の演奏や自転車の交通マナーと防犯講座を聞いたりしました。JOY 倶楽部の演奏はとてもよかったです。交流会では、食事や○×クイズや名刺交換等をしてとても楽しく過ごせました。来年も楽しい交流会にしたいです。

M.M　男性

私は、 7 月 12 日に福岡であった地域生活者交流会に行きました。
今年は、警察官と消防隊の人による講演会で、内容は交通マナーと振り込め詐欺と災害の話でした。その中でも、印象に残ったのは自転車による交通事故の事でした。自転車による死亡事故はないと思っていたのでびっくりしました。私は通勤に自転車を使っているので、映像で流れていたルールを守りながら通いたいと思います。とても勉強になりました。
夜の交流会も楽しかったです。

K.M　女性

私は、地域生活者交流会福岡大会に行きました。オープニングで JOY 倶楽部の演奏を聴きました。とてもよかったです。それから、県警本部・消防署による講座を聴きました。
とても勉強になりました。夜は交流会でした。途中で名刺交換をしました。それから、○ × クイズをしました。
とても楽しかったです。

M.M　女性

地域生活者交流会福岡大会に行きました。
警察の方や消防の方の話を聞いてとてもよかったです。
交流会では、みんなと話をして楽しく友達関係が出来ました。楽しい交流会が良い思い出になりました。
ありがとうございました。

A.F　男性

平成 26 年度　児童発達支援部会研修会（福岡大会）

平成 26 年 8 月 21 日（木）～ 22 日（金）の 2 日間、博多都ホテルで 150 人余の参加を得て、児童発達支援部会研修会を開催致しました。研修テーマを「子ども達の輝く未来に向かって～個々のニーズに応じた支援のあり方を考える」と掲げ、初日の基調講演を「障がいをもつこどもの『きょうだい』を支える」という内容で九州大学大学院教授　遠矢浩一氏にご講演いただき、その後は 3 分科会に分かれ、ゲストスピーカーを交えて各施設よりテーマに沿った報告と質疑が行われました。２日目は厚生労働省障害児・発達障害者支援室障害児支援専門官　大西延英氏に「障害児支援施策の展開」についてお話しいただきました。

今回の研修は、福岡を皮切りに始まった研修会が、九州各県を巡り、再び福岡県に戻ってきた記念すべき年でもありました。行政関係からも多くの方にご参加いただき、障害児支援の施策だけでなく課題についても感じていただけたのではないかと思います。

特に夜の交流会では参加された方々が活発に情報交換をする姿が見られ、「子ども達のために！！」と努力されている熱意が感じられる大変充実した研修会となりました。

第 32 回　九州地区知的障害者施設親善球技大会

平成26年9月27日～28日の2日間、第32回九州地区知的障害者施設親善球技大会が鹿児島県で開催されました。

5年ぶりとなる今大会は、九州地区知的障害者福祉協会に加盟する各県のティーボール及びグラウンドゴルフの代表チームが一堂に会し開催され、初日は桜島も参加者を歓迎するかの如き噴煙で雰囲気を彩り、鹿児島サンロイヤルホテルにて開会式及び前夜祭が催されました。各チームの代表選手が、それぞれステージ上で大会に対する意気込みなどを熱く語られたり、参加選手全員が相互に交流を深められていました。

28日の大会当日は晴天に恵まれ、鹿児島市郡山総合運動場に場所を移し、ティーボール及びグラウンドゴルフの福岡県代表の各チームも、熱戦を繰り広げられており、随所で一喜一憂される場面が見られていました。大会運営にあたっては鹿児島県内の各支援スタッフの方達が細部に渡り御尽力され、スムーズな競技進行となり、事故怪我等なく大きな盛り上がりと共に閉会式を迎えました。

26 年度福岡県知的障害者施設保護者会連合会第 1 回研修会　共催

平成26年9月14日　福岡県知的障害者施設保護者会連合会第1回研修会が開催され当協会も共催者として登壇及び研修会に参加しました。今回のテーマは『実現させよう終の住処』と題し、総合司会は全国知的障害者施設家族会連合会副理事長、高知県「あじさい園」施設長　南　守　氏により進行され、まずはシンポジストの「有明ホーム」保護者　橋本久恵氏より発表、続いて「玄海はまゆう学園」保護者　小川久美子氏と、お二人の方よりそれぞれの思いをご発言いただきました。二人の報告を受ける形で、福岡県知的障害者福祉協会会長　木高徳典氏・支援施設部会部会長　芦馬謙二氏、及び人権オンブズマン福岡代表　古賀久氏による意見交換、会場からの質疑応答等、南氏の進行によりステージとフロアーとが一体となった有意義な研修となりました。『終の住処』としての施設機能や今後想定される「看取り」の場面での支援について多くの意見をいただきました。しかしまだまだ課題も多く、今後保護者や家族の方々と更なる議論が必要な事を改めて今回の研修で感じました。

九州地区知的障害関係施設職員研修大会　宮崎大会

平成 26 年 10 月 16 日～ 17 日の２日間、宮崎県の宮崎観光ホテルで、第 47 回九州地区知的障害関係施設職員研修大会が開催されました。「未来福祉型の福祉サービスを共に創ろう～知恵と出会いがあれば、どげんかなっとよ～」をテーマに、九州各地より総勢 592 名の参加がありました。

大会１日目は、開会式典の後、日本知的障害者福祉協会会長の橘　文也氏より「中央情勢」の基調講演が行われ、午後より「高齢」「障がい特性（軽度）」「障がい特性（重度）」「人財育成」「児童」「施設長対象」の６つの分科会に分かれ、講義やグループ討議が行われました。その後交流会も開催されました。

大会２日目は、全体会が行われ、各県支援スタッフ代表より、前日の分科会の報告がありました。その後、宮崎県立看護大学准教授の大館　正晴氏より「日向神話」の記念講演が行われました。

２日間通して、大変有意義な研修大会となりました。次期開催県は鹿児島県です。

九州地区障害者支援施設部会研修会　沖縄大会

11 月６日～７日の２日間、九州地区障害者支援施設部会研修会が沖縄県で開催されました。

初日は、厚生労働省　課長補佐　落合 克彦氏より行政説明、日本知的障害者福祉協会　副会長　菊池 達美氏より中央情勢報告、さらに、沖縄県での開催を記念し沖縄県興南学園　理事長　興南高校　野球部監督の我喜屋 優氏より「花より根っこ」と題し記念講演がありました。

その後の交流会では、参加者約 300 人が積極的に情報交換を行っていました。

２日目は、「支援困難な利用者の対応 反社会的な行動に対しての施設が行える支援方法」を演題にのぞみの園 理事 中川 英男氏が講演され、その後３名のシンポジストにより強度行動障がい者の支援、触法障害者の地域生活定着支援、虐待緊急一時保護への取り組みについて発表があり、中川氏をコーディネーターとしてシンポジウムが行われました。

UP,UP,UP 障害者支援施設！！～谷間のない支援を目指して～の大会テーマに相応しい有意義な研修会となりました。

第 54 回九州地区知的障害関係施設長研究大会　長崎大会

平成 26 年 11 月 26 日～ 27 日の２日間、第 54 回九州地区知的障害関係施設長研究大会長崎大会がホテルニュー長崎で「水急にして月流さず～障害福祉の明日を拓く～」をテーマに 385 名の参加を得て開催されました。

１日目は、九州地区福祉賞授賞式があり、福岡県知的障害者福祉協会のために長年ご尽力いただきました前会長の小峠繁氏（社会福祉法人福岡コロニー理事長）が受賞されました。

基調講演では北九州市立大学文学部人間関係学科小賀久教授に「障害福祉と基本理念をどのように実現するか～経営と援助の視点から考える～」というテーマでご講演いただきました。

午後からは６つの分科会（児童発達支援・日中活動・障害者支援施設・生産活動 / 就労支援・地域支援・相談支援）が行われ、それぞれの分野での課題等について講義やシンポジウム、事例報告、グループ討議、パネルディスカッションなどが行われました。

２日目は、中央情勢報告を日本知的障害者福祉協会　末吉孝徳事務局長より、社会福祉法人制度の見直しと平成２７年度障害福祉サービス等報酬改定等について説明がありました。

今大会において、利用者の QOL の向上（保障）と法人経営のこれからについてあらためて考える機会となったのではないでしょうか。

特集　食品表示制度について

これからの食品表示制度の基盤となる食品表示法案が、平成 25 年 6 月 28 日に公布され、公布日から 2 年以内で施行となります。新法は、現行の JAS 法、食品衛生法、健康増進法とバラバラだった食品表示の部分を一つにしたものですが、具体的なことには触れていません。それは食品表示を規定する際の「基本理念」や「執行体制」などの枠組みについて定めたものだからです。具体的に決めたのは栄養表示を義務化することで、これは新法施行後 5 年以内に原則として全ての加工食品に栄養表示が付けられることになります。

食品表示に関する現行の法律については、JAS 法、食品衛生法、健康増進法などがあります。（下記参照）

今後は、新法施行に伴い、複数の法律にまたがっていた表示基準や用語が整理され、消費者、事業者双方にとってわかりやすい表示になることが期待されます。

JAS 法　農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（JAS 法、1950 年公布）に基づく、農・林・水・畜産物およびその加工品の品質保証の規格である。英語名称が Japanese Agricultural Standard であるため、一般に JAS（ジャス）と略されたり、その規格を JAS 規格（ジャスきかく）と呼ぶことが多い。この規格に適合した食品などの製品には JAS マークと呼ばれる規格証票を付した出荷・販売が認められている。

食品衛生法　日本において飲食によって生ずる危害の発生を防止するための法律。所管は厚生労働省（表示に関してのみ消費者庁）。食品と添加物などの基準・表示・検査などの原則を定める。食器、割ぽう具、容器、包装、乳児用おもちゃについても規制の対象となっている。

健康増進法　国民の健康維持と現代病予防を目的として制定された法律。平成 13 年に政府が策定した医療制度改革大綱の法的基盤とし、国民が生涯にわたって自らの健康状態を自覚するとともに健康の増進に努めなければならない事を規定、制定したものである。

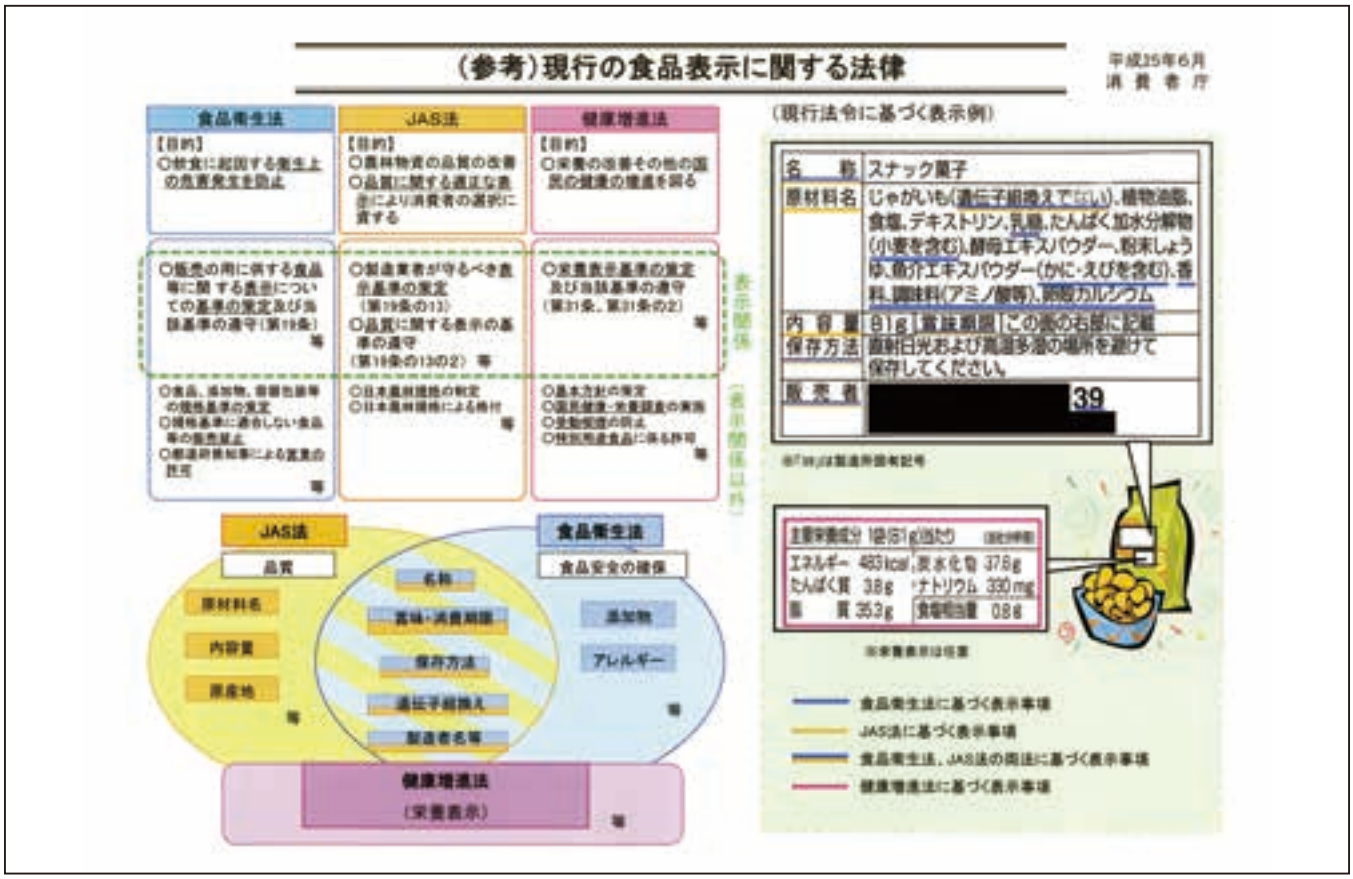
参考資料として、現行法の食品表示に関する図解説明が消費者庁からだされているので、下記に掲載いたします。食品表示について知りたい方は、下記の消費者庁ホームページをご覧になるか、福岡県食品表示１１０番に電話で問い合わせください。

消費者庁ホームページ「食品表示」欄　http://www.caa.go.jp/foods/index.html

福岡県食品表示１１０番

０９２－６４３－３５１８（農林水産部食の安全・地産地消課）

０９２－６３２－１６００（新社会推進部生活安全課）



新加盟施設紹介

（平成26年４月～平成26年12月加盟）

社会福祉法人　鞍手ゆたか福祉会

カレッジ北九州

「カレッジ北九州」は、2014年３月、北九州市小倉北区のJR小倉駅北口から徒歩５分のAIMビル１階に開設しました。そこでは、①子どもから大人へ、学生から社会人へのスムーズな移行②仲間たちとともに青春を謳歌し充実した青年期の体験③各自の個性や長所を伸ばし豊かな人生を送る基礎の形成④職業生活、自立生活を送るためのスキルの獲得を目指しています。「教養･生活」「経済」「文化･芸術」「スポーツ」「ヘルスケア」「基礎学力」「資格・検定」「自主ゼミ」などの学びを通じて、コミュニケーション力や自尊感情、折れない心などを身につけ、将来の自立した生活を送る基礎を学んでいます。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

社会福祉法人　はるかぜ福祉会

障害福祉サービス事業所（多機能型）はるかぜ

2002年４月、春日市内の中学校を卒業した障がいのある二人の「働きたい！」という声を機に、「地域で働き、地域で暮らす」ことをめざして共同作業所はるかぜを設立開所しました。

2008年に地域活動支援センターとなり、2009年４月、就労継続支援Ｂ型事業所の指定を受けて、2012年４月、多機能型（就労継続支援Ｂ型・生活介護）へと変更し、２014年４月よりＮＰＯ法人から社会福祉法人はるかぜ福祉会へ運営を移管しています。

○４つの柱をたてて活動しています。

1. 生産活動・・・菓子作り・アルミ缶回収・受託事業・農園作業
2. 創作活動・・・貼り絵（カレンダー原画作り）・手芸小物・織物
3. 生活訓練・・・ＳＳＴ（個人・グループ）・軽スポーツ・３Ｂ体操
4. 社会参加・・・販売・レクリエーション・地域（小学校等）交流

○情報公開

下記のホームページで、活動の様子（毎週火曜日ブログ更新）をご紹介しております。

ＵＲＬ　　http://swc-harukaze.or.jp

社会福祉法人　庄内幸和福祉会

多機能型通所施設　和の里

平成26年３月１日に飯塚市綱分（旧庄内町）に新設法人で多機能型通所施設「和の里」を開所いたしました。生活介護（定員15名）と就労継続Ｂ型（定員10名）の事業を行っております。「生活介護」では様々な状況に対応できるように、ハード面（建物等）・ソフト面（支援等）を充実させています。

「就労継続Ｂ型」では一人一人が仕事を選択できるように環境を整え、自立に向けた支援を行っています。

スタートしたばかりで、毎日が試行錯誤の日々を送っていますが、利用者様一人一人が安心して安定した生活を送れるように、スタッフ全員が協力して日々の変化に対応し常に一人一人のニーズを考えながら支援に取り組んでおります。皆様今後ともどうぞ宜しくお願いします。見学はいつでも大歓迎です。気軽にお立ち寄りください。

社会福祉法人　鞍手ゆたか福祉会

カレッジ福岡

「カレッジ福岡」は、特別支援学校高等部を卒業した方や一度社会人を経験した方など、様々な方が「自分の学び」を求めて来られています。「自分はこうありたい」と思う自分になるために、持てる力を発揮し、仲間と協力しながら充実した日々を過ごしています。

その支援にあたって私たちが大切にしていることは、○利用者（学生）の自主性、自己判断、自由を尊重すること　○個性や自主性が輝き、伝え合う力や協調性を培うこと　○社会で生きる意欲と折れない心（逆境力＝レジリエンス）を身に付けさせることです。

障がいの有無に関わらず「学び」は必要です。カレッジ福岡で学ぶすべての利用者（学生）に豊かな「学び」を提供し、彼らの心からの笑顔に出会えるよう、私たちも研鑽に励む日々です。

社会福祉法人　三町福祉会

ウェルあらき

平成 26 年 4 月 1 日に久留米市荒木町に生活介護事業所として「ウェルあらき」を定員 20 名で開設しました。
「ウェルあらき」は、社会体験、生活体験、工賃を伴う生産活動への参加など、当法人の経験や実績を生かし、総合的な社会参加支援をいたします。利用者の人権と主体性を大切にし、施設生活での安全の確保を図りながら、より潤いが感じられるよう生活の質の向上に努めます。個々の利用者の方に対しては、年齢、障害に順応した支援を行い、一人ひとりの過ごし方やリズムを大切にし、より家庭に近い形態でみなさんと団欒していただける様、自立支援に向けた生活サポートしていきます。

また、市街地に立地する施設としての特徴を生かし、地域との連携及び相互交流を図りながら、地域に根ざす安心したサービスを提供していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

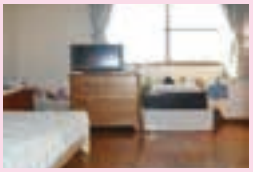
社会福祉法人　光和苑

共同生活援助 グループホーム　いなみつ

平成 16 年 10 月より地域生活援助事業として 5 名からスタートし、徐々に定員が増え続け、現在は定員 58 名の共同生活援助事業所となりました。

社会参加を促進する為、日常生活や余暇活動の支援を行い、地域社会と密着した利用者主体の生活を目指すとともに、利用者の自立を促しながら個別支援計画に基づいた支援を行っていきます。

資格取得や独り暮らし等の支援にも取り組んだり、利用者様の『やる気』を私達が全面的にサポートし、アットホームな雰囲気の中、笑顔の絶えない選ばれるグループホームを目指し、職員一同努めてまいりますのでよろしくお願い致します。



社会福祉法人　のぞみの里

生活介護事業所　そよぎ今宿

平成 20 年 6 月 1 日、福岡市西区今宿に生活介護事業所「そよぎ今宿」(定員 20 名) を開設しました。

そよぎ今宿の名前の由来は、「そよかぜのように心地よい支援」を目指そうと名付けました。

そよぎ今宿では、利用者の人が自立した生活又は社会生活を営むことが出来るよう、「日常生活支援」、「作業支援」、「創作活動」、「余暇支援」などを通して生活能力の向上を目指した支援と機会の場を提供する事業所です。特に作業については、どんなに障がいが重い人でも働くことを保障することを基本方針として、製品づくり (アート系・アクセサリー系)、外注作業、自立課題などに取り組んでいます。

そよぎ今宿の特徴は、福岡県内の強度行動障がい者を受け入れて支援している事業所です。そのため自閉症スペクトラム障がいに特化した支援、個別支援を基本に余暇活動、外出なども個々のニーズに応じたオーダーメードの支援を行っています。

活動としては、事業所から地域資源を利用した活動、特に音楽療法は積極的に取り入れています。

そよぎ今宿のスタッフは専門的な研修、スーパーバイザーによる指導などを受けて日々支援に取り組んでいます。

これからも自閉症スペクトラム障がいの人、行動障がいの人がその人らしく生きることができるよう支援していきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

社会福祉法人　嘉穂の里

相談支援センター　COCOSU（ココス）ネットワーク

平成 26 年 7 月 1 日、嘉穂郡桂川町に指定特定相談支援事業所「相談支援センターＣＯＣＯＳＵネットワーク」を開設しました。

障がいを持たれた方々が生活していく中で直面する様々な困難や問題、または日常生活での悩みなどについて相談に応じ、解決に向けて共に考えていきます。あらゆる必要な関係機関との協働で、障がい者の地域での安心で快適な自立した生活の実現のためのお手伝いをさせていただき、社会貢献させていただく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

本会ホームページ URL　http://www.fukuoka-chiteki.jp

本会では、ホームページによる情報提供を行っています。今後ホームページは随時更新を行いながら、より良いホームページにしていきますので、何かお気づきの点等ございましたら、本会事務局あてにご連絡くださいますようお願いいたします。